

いぬなし青葉

前号に引き続き、全国学力・学習状況調査（以下、全国学調）、みえスタディチェック（以下、みえスタ）、生活実態調査の結果やそこから見えてきたものを、お知らせします。

生活習慣について

- 「朝食を毎日食べていますか」の問いに対し、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、1年生から81%、77%、80.5%（全国平均78.6%）でした。「どちらかといえば当てはまる」を含めた肯定的な回答をした生徒の割合は、1年生から93%、91%、91.6%（全国平均91.2%）となります。約1割の生徒が朝食抜きで登校していることが気になります。朝食は一日のスタートスイッチになります。「早ね、早おき、朝ごはん」です。
- 農林水産省のHP (<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/evidence/chosyoku.html>)に「朝食を毎日食べるとどんないいことがあるの?」という特集があります。そこには、朝食を食べる習慣は、①食事の栄養バランスと関係している ②生活リズムと関係している ③心の健康と関係している ④学力・学習習慣や体力と関係している と書かれています。時間があればお子さまと一緒に読んでいただき、朝食の大切さを再度確認していただければと思います。
- 「普段、何時ごろに寝ますか」の問いに対し、「午後10時までに寝る」と答えた生徒の割合は、1年生から30%、13%、5%でした。「午前0時以降に寝る」と答えた生徒の割合は、1年生から10%、21%、37%でした。また、「普段、1日にどれくらいの時間、睡眠をとりますか」の問いに対し、「8時間以上」と答えた生徒の割合は1年生から、42%、24%、16%でした。「7時間より短い」と答えた生徒の割合は1年生から27%、35%、40%でした。
- 学年が上がるにつれ、就寝時刻が遅くなり、睡眠時間が短くなる傾向があります。成長期は大人よりも多くの睡眠が必要です。中学生の睡眠時間は8～10時間が理想とされていますので、少しでも早く寝られるよう、帰宅後の生活習慣を見直してみましよう。



学校生活について

- 下の【表4】は学校生活についての問いについて、肯定的な回答をした生徒の割合をまとめたものです。1・2年生の欄は、本校/市平均、3年生の欄は、本校/全国平均を表しています。

【表4】	1年生	2年生	3年生
① 学校に行くのは楽しいと思う	92.1/86.7	77.1/86.3	86.4/81.8
② 自分と違う意見について考えるのは楽しい	86.4/79.2	89.7/85.9	87.9/77.6
③ 友達と協力するのは楽しい (3年) 友達関係に満足している	96.3/95.5	94.2/95.9	94.7/88.7
④ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	90.6/85.5	89.1/89.1	84.7/79.7
⑤ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	91.1/82.4	88.5/92.8	92.6/86.3

- ①の回答を見ると、多くの生徒が学校生活には満足していることが分かります。しかし、1年生で8%、2年生で23%、3年生で14%の生徒が「学校に行くことは楽しい」と感じていないことに目を向ける必要があります。このことを少しでも解決するために、教員間の情報共有をより密にし、日常の対話や担任による生活ノートでのやり取り、教育相談等をより一層、丁寧に行い、生徒に寄り添いたいと思います。
- ②の「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という問いに対し、肯定的に回答した生徒の割合が多いことを大変うれしく思います。学校を始めとする社会では様々な意見があって当たり前で、自分と違う考え方や意見と出会ったときに、どう感じ、どう対応するかが大切です。反対したり、距離をとったりするのはなく、自分と違う意見について考えることが楽しいと感じられることは、大変すばらしいことです。多様性の時代をより良く生き抜いていくには、とても大切な力です。
- そのような力を育むために、教科授業や道徳の授業、学級活動等で、話し合う活動を取り入れ、自分の考えを表現したり、相手の考えを聞き、自分の考えを修正したり、お互いに納得できる解を見つけ出したりする経験ができるようにしています。その経験をより効果的にするためには、前号でも述べましたが、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと、つまり、授業に主体的に取り組むことが大切です。

自己有用感・規範意識について

- 下の【表5】は自己有用感・規範意識についての問いについて、肯定的な回答をした生徒の割合をまとめたものです。1・2年生の欄は、本校/市平均、3年生の欄は、本校/全国平均を表しています。

【表5】	1年生/市平均	2年生/市平均	3年生/全国平均
① 自分には、よいところがあると思う	83.8/77.4	68.4/78.2	81.6/80.0
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	—	—	89.5/87.3
③ 将来の夢や目標を持っている	82.2/79.0	66.1/71.5	73.2/66.3
④ 人が困っているときは、進んで助けている	96.3/93.0	92.0/93.2	92.1/88.1
⑤ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	96.3/96.2	95.4/96.4	95.8/95.5
⑥ 人の役に立つ人間になりたいと思う	97.4/95.3	91.4/95.1	94.7/94.6

- 【表5】の①～③が自己有用感に関わる問い、④～⑥が規範意識に関わる問いです。②の問いは全国学調にはありますが、みえスタにはなかったため、空欄となっています。
- 【表5】から、1・3年生の自己有用感^①は育まれていると捉えられますが、2年生の自己有用感^①が低くなっています。規範意識^{④～⑥}はどの学年も育ってきていると考えられます。
- 自己有用感とは、自分が有用だと思える感情です。「自分の存在がだれかの役に立った」「他人に喜んでもらった」「学級や学校、地域に貢献している」と認識したときに、実感できる感情です。したがって、相手の存在なしには生まれてこない感情です。また、「誰かに必要とされている」という感情にもつながります。こういった感情が高まれば、**周囲への貢献意欲も高まり、相手や周囲への感謝の気持ちも芽生えます。社会性の基礎となる感情**です。
- 国立教育政策研究所発行のリーフレット『『自尊感情』？それとも、『自己有用感』？』によると、自己有用感を育むには「褒（ほ）めて（自信を持たせて）育てる」という発想よりも、「認められて（自信を持って）育つ」という発想の方が、子どもの自信が持続しやすいとあります。具体的には「行事に取り組む、学習に取り組む際などに、子ども自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが『認める』という行為では重要になります。それが、『自己有用感』を育むことにつながると書かれています。<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf18.pdf>
- 2学期には体育祭、文化祭、2年生は職場体験学習もあります。行事や普段の授業の中で、「認められる」経験、「人の役に立っている」経験をし、自己有用感を育めるよう、取り組んでいきたいと思えます。
- ご家庭でも、結果から「良かったね」「頑張ったね」と褒めるだけでなく、どのように取り組んだのか、どんなところが頑張ったのか等、取組の過程を認め、自ら自信を持つようお願いいただければ幸いです。
- 規範意識とは、**集団生活や社会生活におけるきまりやルール、約束などに基づいて、主体的に判断し行動しようとする意識**です。文部科学省は、「規範意識は、家庭において、躰（しつけ）、規則正しい睡眠や食事等の基本的な生活習慣、または家庭の手伝い等に関する教育を土台とし、その土台のもとに、学校教育において、きまりを守ること及び他者との関わりを大事にするための具体的な活動を通じて育まれるものである」としています。
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/053/002.htm
- 自己有用感や規範意識を育んでいくためにも、より一層、**他者と関わる機会を数多く**設けていきます。



その他、特徴的な回答について

- 「授業でPC・タブレット等を、どの程度使用したか」の問いに対し、「週3回以上」と答えた生徒の割合は82.1%（全国平均61.1%）となり、**大変高い値**となりました。
- 「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思うか」の問いに対し、肯定的な回答をした生徒の割合は、47.4%（全国平均36.7%）となり、**英語への関心が高い**ことが分かります。
- 「家には、どれくらいの本があるか」の問いに対し、「100冊以上」と答えた生徒の割合は46.9%（全国平均32.7%）でした。読書が好きな生徒が全国平均より多いことにつながっていると考えられます。
- 「新聞を読んでいるか」の問いに対し、「週に1～3回以上」と答えた生徒の割合は、10.0%（全国平均8.4%）でした。「月に1～3回以上」と答えた生徒の割合になると**27.9%（全国平均19.3%）**となります。本校は新聞販売店を営むコミュニティスクール委員さんのご厚意により、毎日、教室に新聞が届けられています。**新聞を読むことで語彙力**（ごいりよく＝その人がもっている単語の知識と、それを使いこなす能力）や**文章力が向上**します。また、身近な情報だけでなく、政治、経済、国際問題など、**社会情勢や国際情勢を知**ることができます。記事をじっくり読むことで**自分なりの考えを持つ**ことにもつながります。ネット社会だからこそ、新聞の魅力^①を再認識してほしいと思えます。